

【4/18(土)】医療法学セミナー・スペシャル第2回シンポジウム「日米徹底比較：医療事故・医療安全・医療訴訟～医療者教育と研修も見据えて～」

<http://ameblo.jp/masako-sugihara/entry-11993338088.html>

●目的●「医療事故調査制度」（2015年10月1日施行予定）のガイドライン策定に関して、現在、研究班で議論されており、今後、厚生労働省がこの結果を踏まえて検討を行う予定です。しかし、米国など、海外における医療安全管理体制や医療事故・訴訟の実情はあまり知られていません。もちろん海外の方法がすべて優れているわけではありませんが、米国の現状を日本のそれと比較することで、日本の医療安全管理体制の進むべき道も見えてくるのではないのでしょうか。また、2014年4月16日に国立国際医療研究センターで、後期研修医（レジデント）である担当医が、腰部脊柱管狭窄症再発の疑いのある患者さんに、脊髄造影用造影剤イソビストを使用すべきところを、誤って禁忌であるウログラフィンを脊髄腔内に注入し患者さんが亡くなるという医療事故が発生し、教育や研修と医療安全管理体制の関連の見直しも喫緊の課題です。今回は、ボストンのHarvard大学関連病院であるBrigham and Women's Hospitalの循環器内科臨床フェロー、島田悠一医師と、医師で弁護士の大磯義一郎氏の講演と、いつもの2時間の全体討論を予定して、多くの方のご参加を心からお待ちしております。

●日時● 2015年4月18日(土) 17:00-21:00 （16:30開場）

●場所● 慶應義塾大学病院2号館(新棟)11階中会議室 (JR信濃町徒歩2分)下記キャンパスマップ7番

<http://www.sc.keio.ac.jp/campus.html>

*慶應病院正面玄関から入って直進し、外来を越えた奥のエレベーターで11階までお越し下さい。お弁当の提供はありませんが、持ち込み可能です。院内正面玄関入って1階右手のローソンや駅前のミニストップ信濃町駅北口店をご利用下さい。

●主催● 臨床医学教育研究会(臨医研)(代表 杉原正子)

●後援● 慶應義塾大学病院 医療安全対策室

●プログラム● (敬称略)

16:30- 開場

17:00-17:10 開会のご挨拶(10分) 杉原正子

17:10-17:55 大磯義一郎「日本の現状とあるべき体制への提言：医療事故・医療安全・医療訴訟、および教育・研修」(浜松医科大学医学部「医療法学」教授、帝京大学医療情報システム研究センター客員教授)

17:55-18:45 島田悠一「研修医の立場から見た米国の医療安全・医療訴訟」(米国ボストンBrigham and Women's Hospital 循環器内科臨床フェロー)

18:45-19:00 質問票記載、休憩(15分)

19:00-21:00 質疑応答・全体討論(2時間)

21:00-23:00 懇親会(約2時間)

●お申込み●

ご参加の方は下記の出席票に記載の上、件名を「医療法学セミナー・スペシャル2」として、杉原正子（国立病院機構久里浜医療センター、慶應義塾大学医学部精神神経科学教室）

waruko_sugihara@yahoo.co.jp

宛にお申込み下さい。現時点のご予定で結構ですので必ず懇親会の出欠もご記入下さい。

=====キリトリ=====

《氏名》

《所属》

《職種》

(学生さんは、大学名、学部、学科、学年も記載お願いします。)

《メールアドレス（携帯）》

《メールアドレス（パソコン）》

《懇親会(21:00-23:00)》 出席 欠席

《今回のテーマ「日米徹底比較：医療安全・事故・訴訟・医療安全教育」に関してご興味のある論点を以下にお願いします。》

投稿